

教化の日々

渡 邊 信 勝

(静岡県上行院住職)

一、教化の重み

現在の私の在り方を省り見、日蓮門下として、はたして自分自身がその会下の末葉として、その末席に列してられるのかと考えると、その答ははなはだ薄ら寒い思いがする事を禁じえない。教学思想より見た聖人門下としての本来の在り方とは、はるかに懸け離れた、懈怠謗法の歲月を送っている己が姿が陰るだけであり、誠に申し訳ないと同じ時に、己の宿徳のなさ、力のなさ、有徳の対告衆のなさをしみじみ感じ入る。まして「上求菩提・下化衆生」の基本態度を思えば、「教化」について語ることなど、私には、あまりにも恐れ多いことであるのだが、……………

二、教化の根本「日蓮聖人の教」

日蓮聖人の御教が「三大秘法受持」「仏国土建設(立正安国)」「靈山往詣」の三点を主として成り立っている事は、論をまたないが、その教を受持信行する立場と、その教を弘める教化の立場となると、その人の生れた時代や、国土・地域社会により各人様々であり、教団組織の在り方は、時の流れ、その時代を熟知しなければならず、一個人の生涯としては、それぞれの宿善・宿業により、如説修行の道程もまた千差万別の結果であり、鎌倉時代よりの先師の足跡

を拝しても時の流れを無視できない。しかも三大秘法をもって教化し、教化された歴史事実の有徳の師檀は最も幸福であり、思い切り全身全霊で、日蓮聖人の教に生涯を捧げている。

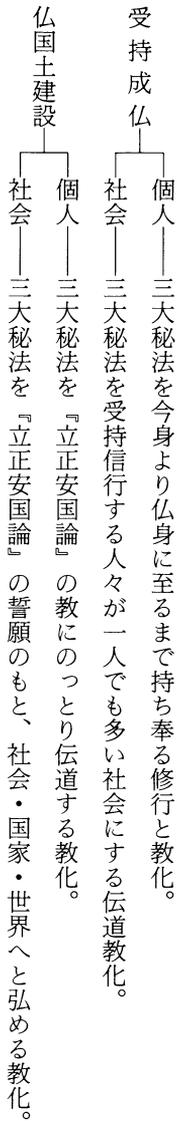
近代に入り、また生き方はそれぞれであるが、田中智学居士の教学を主体とした生涯、綱脇龍妙上人の慈悲救済を主体とした生涯、藤井日達上人の常不軽に類似した毒鼓宣令の頭陀行道の在り方等々、確実に時と共に本化の末葉は受肉している感を呈している事が知られよう。

さて、現実に帰り、凡俗の私自身共々教化の在り方を考えると、何とかしなければと思いつつも、なすすべもなく腕組みをしてただ嘆くのみである。しかしありがたい事には、此の点を考慮しながらも、日蓮聖人の教の要旨は、いかなる時代であろうと、師檀がいかにあろうが、不変のものである事もまた肝に命じておかなければならない。これを忘れると、いつかは退転の道へ進んで行く。

三、教団論及び己身の立場よりの教化

(一) 教化総論

教化の総論は、いかに現在の環境に伝道し、護持正法し、続種護法するかにあるが、まず日蓮聖人の教の三点についてみると、





以上のことを簡略ながら教化の基本として、以下、現実に即した檀信徒教化の現状を見てみる。

(二) 教化各論

- 一、世界の平和なくして私達の安定した生活はありえないことの認識。世界の政治指導者の手に人類存亡の運命があり、科学文明社会に生きる中、地球の生命環境を大事に守り通さなければならぬ。世界万国の共栄共存の祈念。
- 一、国家の安定と繁栄は国民生活の土台であり、国家の秩序維持と弥栄の祈念。
- 一、教団の充実と前進は必要不可欠のことで、まして現代では、一個人の布教はそれぞれ最も大事であるが、組織団体でなければできないことが多々あり、包括団体の充実の祈念。いわゆる個人は一隅を照らすを国宝として、教団は千里を照らすを国宝とすべきであろう。時代の流れに流されつつある既成教団と、時代の流れと共に生まれ成長した新興教団の在り方を、よく見極めて思慮すべきことを感じる。
- 一、国家の中における教団の在り方は、中央の方針を充実すべきであり、また地域社会における教化は、教区・管区ごとに宗務院の中央方針を応用して、地域の実状に応じた布教努力をすることが好ましく、中央都市型・地方都市型・農村型・漁村型等々と地域により様々であり、風俗土壌と共に成育した地方寺院や檀信徒の教化方法は是非は、教区・管区のセンターで論じあうべきであろう。地域社会の交流と和の祈念。
- 一、各单位寺院の在り方は、都市寺・田舎寺等、能梵の寺もあればその逆もあり、都市化と共に充実する寺もあり、

過疎化に悩みつづけている寺もあり、同じ計測にはとてもかけられない。それ故に、寺の伝統を重んじつつ、地域の特色を生かして、住職の能力や性格・持味にそって行くべきで、そして初心に帰り、寺本来の姿、目的たる道場の姿勢を徹すべきであろう。道場の弥栄と護持、統護護法、そして道場を維持する施主たる檀信徒の一家繁栄・子孫長久の祈念。

○宗団法人の行事（以下、私メモ）

宗団法人は組織である故、よい運営にすることにこしたことはない。

「公行事」は、新年初祈禱、御風入れ、御会式、組寺輪番廻り題目講など。これらは、檀信徒代表世話人総務の行事で、接待・会計等は一切世話人扱いで、収支は護持会へ繰入れ公表する。また住職は無畏世にして法要のみ虔修、但し総責任は住職にあり。

「私行事」（接待・会計等の区別の都合上、名称を公私としたのみ）は御難会等の宗門行事、開山会、一般葬儀、法等。その他諸行事法要は、住職総務にして、接待や会計は住職一任。公表なし。

○会計は、世話人扱いの護持会会計・山林会計・墓所会計に分け、年度ごとに公表し、住職施収入は住職会計として公表なし。但し個人会計は源泉する。（一応公私の区別をはっきりさせているが、やはり檀家の少ない田舎寺故に、住職個人より寺の発展維持のために応分の補助をしなければならない）

○檀信徒教化小考

三秘受持信行。但し、御本尊はみだりに授与しない。正法正信に直入するはよほどの宿徳の信徒にして、多くの信徒はまわり道か化城にも至らず。

宗門諸行事虔修——読経唱題・法話。

私法要・告別・法事等——読経唱題・法話。

月例参詣（宗門行事を兼ねる時もある）——読経唱題・法話。献灯・香・花・膳・茶供養。精神修養。

○放生池放生供養。山林庭苑植樹供養。戦没者供養塔平和祈念。水子供養塔供養。詠歌碑奉歌供養。その他（平和祈念及び祖霊供養・厄落し祈念・和合誕生発育祈念等の目的）

○その他、時に応じて教学指導・御経練習・唱題行等を行ない、方位・家相・墓相・撰名等を見てあげ、人生相談や、家庭問題の指導をして、祈禱・祈念をしている。

未信者が入信し、信仰を持続する人は、宿縁の人はともかく、人生に行きづまった人、重病の平癒した人が多く、その他の相談の人は二期一会の人が多くようであり、信仰する人の大部分は女性であり、しかも主人、ことに子供の事のための祈念が多く、世界平和や立正安国の祈念とはほど遠い。

私は、右の点を考慮に入れて教化活動をしています。薄徳微力にして、理想とはほど遠い牛の歩みです。